

## 【本文】

いかにも今度信心をいたして法華經の行者にてとをり、日蓮が通一門となりとをし給ふべし。日蓮と同意ならば地涌の菩薩たらんか。地涌の菩薩にさだまりなば釈尊久遠の弟子たる事あに疑はんや。經に云はく「我久遠より来このかた是等の衆を教化す」とは是なり。末法にして妙法蓮華經の五字を弘めん者は男女はきらふべからず、皆地涌の菩薩の出現に非ずんば唱へがたき題目なり。

## 【背景と大意】

本抄は、文永十(一二七三)年五月十七日、日蓮大聖人五十二歳の御時、佐渡一谷(いちのさわ)の配所において認められ、天台宗の元学僧で大聖人に帰伏した最蓮房日浄に与えられた書です。最蓮房から法華經方便品の「諸法実相」についての質問があり、本抄は質問に対する大聖人の返書です。

内容は、まず諸法実相について「万法の当体のすがたが妙法蓮華經の当体なり」(御書六六五)と示され、次にその妙法を末法に入って上行菩薩の再誕である大聖人が初めて説き明かすと仰せられています。本日拝読の御文はこれに続く箇所で、大聖人に同意して妙法を弘める者の深い因縁を明示されます。次いで、大聖人お一人から二人、三人、百人と次第に唱え伝える広宣流布の実相を示され、最後に最蓮房に対して、一閻浮提第一の御本尊を持ち信行学に励み、折伏の実践に精進するよう督励し、本抄を結ばれています。

## 【通釈】

なんとしてもこの度は信心をいたして法華經の行者となり、日蓮の一門となり通すべきである。日蓮と同意であるならば地涌の菩薩に違いない。地涌の菩薩であると定まったならば、釈尊久遠の弟子であることを、どうして疑うことができようか。法華經に「我(釈尊)は久遠以来、これらの(地涌の菩薩)衆を教え導いてきた」と説かれているのはこのことである。末法において妙法蓮華經の五字を弘める者は、男女の別なく、皆地涌の菩薩として出現した者であり、そうでなければ唱えることのできない題目なのである。

## 【主な語句の解説】

法華經の行者：法華經の教説のままに修行する人をいう。大聖人は御自身を「日本第一の法華經の行者」(御書一三九三)とも「教主釈尊より大事なる行者」(同一一五九)とも仰せである。総じては妙法を實踐修行する者、別しては末法の御本仏の異名と拝する。

地涌の菩薩：法華經從地涌出品第十五において大地より涌出した、上行菩薩を上首とする六万恒河沙の菩薩のこと。なかでも上行菩薩は如来神力品第二十一において釈尊より結要付嘱を受け、末法の弘通を一身に託された。大聖人は竜口法難において、上行菩薩の再誕・凡夫日蓮としての迹身を払い、久遠元初の本仏としての本地・内証を開顯された。

我久遠く教化す：法華經從地涌出品第十五(法華經四二二)の經文。



## ○地涌の菩薩の眷属として使命を全うしよう

末法に生まれた私達は、過去世に仏との縁を持たない「本未有善」の衆生です。しかし、大聖人は拝読の御文において「日蓮と同意ならば地涌の菩薩たらんか。地涌の菩薩にさだまりなば釈尊久遠の弟子たる事あに疑はんや」と、大聖人と同意して妙法弘教に励む者は、地涌の菩薩に他ならないと示されています。

本未有善の衆生が釈尊久遠の弟子である地涌の菩薩となる所以について、総本山第六十七世日顕上人は「初めは本未有善として全く仏法に縁のない末法の衆生が、妙法を受持し、題目を唱え、折伏を行ずるとき、地涌の菩薩の命に生まれ変わる。したがって、久遠以来、妙法を行ずる清浄な地涌の徳がそのまま、その者の命となり、久遠以来の妙徳が生ずる。これが、妙法の不思議な功德なのである」（すべては唱題から四一）と、その深い意義を指南されています。

大聖人の御心を深く体して折伏を実践するとき、「地涌の流類」（御書六六六）、すなわち地涌の菩薩の眷属として生まれ変わる事ができるとの仰せです。私達はこの尊き使命を全うするため、正法弘通にこの身を捧げ、与えられた時間を妙法に奉ることこそ肝要です。

## ○「日蓮が一門なり」誓願貫徹を

大聖人が竜口法難から佐渡配流に至る大難を受けられるなか、門下一同に対しても諸難が競い起こり、多くの者が不信を抱き退転してしまいました。そのような状況下にあつて、大聖人は「信心をいたして法華經の行者にてとをり、日蓮が一門なりとをし給ふべし」と、強盛な信心をもって障魔を打ち破り、決して退転することなく、日蓮が一門として信仰を貫き通すよう教示されたのです。

私達が信心修行、とりわけ折伏行を実践していく時、様々な困難に直面することもあります。しかし、御法主日如上人猥下は本抄を講ぜられて、「我々一人ひとり」が『地涌の流類』であるという確信を持つことが大切なのです。この確信があれば、あらゆる難も乗り越えていけるのです」（折伏要文一四三二）と指南されています。私達は今、「地涌の菩薩の出現に非ずんば唱へがたき」と仰せの題目を唱えています。この身の福德に心から感謝申し上げ、大聖人の教えを正しく受け継がれる御法主人猥下の御指南のまま、折伏実践に立ち上がってまいります。

## ○日如上人御指南

大御本尊様への絶対の信をもって乗りきっていくところに、私達の一生成仏があります（中略）難に負けない、難を乗り越える信心こそ、今、私達にとつても、一番大事な信心の姿ではないかと思えます。（大日蓮・令和四年九月号）

大聖人御聖誕八百年の慶祝記念総登山が賑賑しく行われています。この時に当たり、今までコロナ禍で会えなかった未入信の方にも正法の功德を語り、寺院へお連れして折伏を成就し、記念すべき総登山に共に参詣しようではありませんか。

「折伏躍動の年」にふさわしく、元気で明るく活き活きと、講中一丸となって折伏誓願目標を必ず達成しましょう。